川柳

ばら

第 30 巻

1993年　7・8月号

車間距離
おくと
心が
よく
読める

多佳男

目　次

巻頭文「パイオニア歴史」斎藤竜子・・・・・・・1
7月同人吟・7月　特選　野尻南海選・・・・・・2
7月雑詠　野尻南海選・・・・・・・・・・・・・3
7月課題「不平」木下城南選・・・・・・・・・・5
6月の遅着・7月宿題「有名」互選・・・・・・・7
7月宿題「やすらぎ」互選・・・・・・・・・・・8
7月　席題「声」木下城南選・・・・・・・・・・8
悼　田城藤枝様・雑感 －　北岡弥寿・・・・・・9
木下城南さんにお会いして －　村上ふさ子・・・10
私の好きな句 －　田中良実・王生栄・・・・・・11
8月同人吟・8月雑詠特選　大森風来子選・・・12
8月雑詠　大森風来子選・・・・・・・・・・・・13
8月課題「返事」大森よしえ選・・・・・・・・・15
訂正とおわび・8月宿題「晴れる」城南選・・・17
8月宿題「袋」記代選・勉強室・・・・・・・・・18
ばら吟社課題と選者予告・感謝録・・・・・・・19
時事川柳　大森風来子・編集室・・・・・・・・20

巻頭文

パイオニア歴史

斎藤　竜子

ポートランドでは今「オレゴン一世パイオニア展」が開催されています。ポー市の二世、三世の有志の発案により諸準備が進められ、一年の歳月を費やして開会となりました。

参考資料の写真、パイオニアの使用した日用品等蒐集はジョージ片桐氏それに伴う費用捻出の労はジョージ東野氏を先頭として目的を上廻る程の上成績を上げて市内オレゴン歴史協会博物館で、めでたく開催となりました。準備委員会では一般の協力と援助を深く感謝しています。

八月八日発会で一般の参観を希い来年一月十六日以後はオレゴン州内各地で移動展示会が催される事となっています。オレゴン日系一世先駆者の地味な暮しの中にアメリカ社会に貢献を惜しまなかった事を日系コミュニテーのみならず一般オレゴニアンにも理解してもらうよい機会でありませう。パイオニアの大きな犠牲と苦難も忘れてはならない。

展示会を通じて先駆者への尊敬の念をより増大させる事になりませう。オレゴン移民の母として一八八〇年に岩越ミヨ様が移民第一号として記帳されて居ります。

歴史を繙くと一九一〇年、川柳の声がヤキマ平原に移民していた本田華芳師が近郊の農園働き、鉄道働きの青雲を抱いてはるばる渡米した青年達の郷愁、解雇、失業等の理由で意気消沈ついに酒場、遊び場にいり浸るのを見て優秀な青年の前途を憂い、川柳を教えグループを作り作句の楽しみを知らしめ現在の川柳王国を造られたと伝えられている。

この歴史を誇りとし「日本人居る処に川柳あり」で一日一句を自分の足跡としてしるして行きませうが拡がって行きました。そして川柳を通じて故国日本の人達にも日本を離れた人の努力を知って頂きたいと思う者であります。

特に「パイオニア歴史展覧会」に深く感ずるものでございます。皆様のご健吟おまちしています。

『七　月』

同人吟

むさくとも百平方のわが住居　木下　城南
一脚の机が部屋の王者めき

アイビーは切っても元気塀登る　三浦　里ん
松花粉空家のポーチ黄に染まり

バラ祭り天も味方のいい天気　斎藤　竜子
まだ話し半ば大会幕となり

せっかくに咲いたお花が雨に泣く　バトラーしげ子
お日さまを見ると喜ぶ孫の顔

一度来て見たよな思いロォレライ　村岡美代子
しんどいと只籠り守宮ごと

大会も終わりしぼんだ空元気　上賀　兼子
再会の人を迎える温い風

世の乱れ気候も狂って伴奏し　長井　記代
フィルムも入れ替え孫の誕生日

〈ばら吟社〉　七　月

「雑詠」

野尻　南海　選

特　選

日本語も危うくなった来た米寿　山中　桂甫
危うくなったと解る間は大丈夫、百寿まで
頑張ってください。

古さとの温り抱いて国なまり　斎藤　竜子
戦後の転住地で同じ国訛の人に出合った感
激わ今も忘れられません。

ストリーを読んで泣いてる孫愛し　バトラーしげ子
きっと優しいお孫さんです。大切に見守っ
てあげて下さい。

墓参り草月流の花をいけ　木下　城南
仏様もびっくり、喜ばれたことでしょう。

忙しいと云う幸せそうな顔　岩本多佳男
サンデーも働きですと恵比寿顔

装おうて見ても所詮は紙人形　長井　記代
真心で装うていれば紙人形も生きて来ます。

梅干しの漬け方日本へ問合せ　望月　弘江
梅干しの味は日本人だけが知って居るので
はないでしょうか。

軸　薬から始まる朝の深呼吸　南海

〈ばら吟社〉　七　月

雑詠

野尻　南海　選

筆無精今日も電話で用すまし　田中　良実
他国でも祖国の文化忘れない
朗らかな笑顔家庭を明るくし
洋食の後にほしいお漬けもの
したくない苦労も夫婦なら耐える　王　生栄

皆笑顔良き集いかなバラ祭り
忘れえぬ集い川柳大会
忘れえぬバラの名札何時までも
細かい心遣いに頭が下がり

選者の心遣いに感謝を
親切なもてなしに頭が下がりけり　村上ふさ子

絹ずれの十二単衣の足さばき
朝夕の目薬が知る老現象
気があれば出来るじゃないか汗を拭き
里帰りみじめな思いするばかり
遠くに来初対面とは思われず　上賀　兼子

頬杖をついて思案の夢の中
気の抜けたビールのような怠惰な日
ゴルフボール打てばすねて穴を避け
ハンドルに急げば廻れと云い聞かせ
明日なろう癖で歯車食い違い　佐々木　要

亡き友に花を分ける（供養）メモリアルデー
虫眼鏡と字引かがせぬ句作り
晴耕し雨にいらいら読めもせず
葬続き次ぎは俺かと思い込む
梅干しがつい欲しくなる夏の飯　斎藤　竜子

古さとのぬくもり抱いて国訛
鉛筆を削って句想ちびて行き
極楽郷同人趣味の座の丸い
差し出した手に昭和型大正型
名に聞きし句と顔結びいらっしゃい

和やかに大会も無事バラ香る　バトラーしげ子
新しい柳友が出来大会日
新しい隣人出来てお茶楽し
ストリーを読んで泣いてる孫愛し
共白髪二人の愛は永遠に　三浦　里ん

又雨かどこかのババキューいい匂い
咲いたバラ枝ごと舞す暴風雨
しゃくなげも咲いて山越す目に楽し
道普請待つ事長い通せんぼ
美しい野の花群れて咲きみだれ　岩本多佳男

振出しへ戻れと苦い酒が言う
花を撰るひっそりと咲く花を撰る
飲まぬのが一人ハンドル握らされ
忙しいと言う幸せそうな顔
好かれたいあの人に合わす好き嫌い　木下　城南

病窓で知る人々の裏表
髭立てて威厳を見せる若い医者
墓参り草月流で花をいけ
同郷と聞いて高鳴るわが心
夜逃げした形になったわが古家　村岡美代子

母国なりセンチメンタルジャニー誰が為ぞ

JR乗り日本縦断グラバー邸
サクランボ狩りといそいそバス停へ
捕えればパッと飛ばしたイカの墨
見も知らぬ女の持ちくれ重荷物　柳沢　美涼

カロリーダイェットの食事に痩せている
空腹に耐え昼食の米の味
街路の双葉が萌えて夏が来る
子の料理美味しさ食べた日の安堵
試歩の道息子の腕なに助けられ　長井　記代

ジャケツ着て花火を仰ぐ独立祭
生かされて夏の涼しさ笑い合い
装うてみても所詮は紙人形
虹色の夢がゆらゆらシャボン玉
アカシヤも散ってたがわず時流れ　山中　桂甫

日本語も危うくなって来た米寿
ごつい手を洗いじいちゃんらしくなり
悠々と雲の浮かんだよい日和
ペィントの匂い新車だなと分かり
完成を目指し槌音良くひびき　望月　弘江

十五年待った甲斐あり梅実る
梅干しの漬け方日本へ問合せ
収穫を何時にしょうか梅に聞き

朝毎の楽しみトマトに話しかけ
天と地の恵みで育つ花野菜　ストロベルまちえ

草深い夏の牧場に草いきれ
愚かな話しでも意見と思い聞く
久遠にも歌は好かれる愛される
愚妻でも夫の帰り待つ姿
銀幕に派手に演じるスターあり　蔡　月珠

人民は揺れる政界に肝つぶし
全世界平和共存日々好き日
くちべらし丁稚小僧に子をあずけ
忘れ得ぬすみれの押し葉色褪せて
習い歩きヨチヨチヨチヨチと母すがり　蔡　徳音

縁ありて空港に出て八十祝い
胸に泌む地主の誼を忘れまじ
自尊心真心をおい昔を忍び
太陽と呼ばれて恐れ入るばかり
安着のしらせに接し阿弥陀仏　ニコラス華

亭主が肥ったアナタ好きと言う
古今東西男のセリフのうまいこと
乗った振り決めてこっそりダイエット
アーア不発一向落ちずやるせない
ケ・セラセラ良く食べ眠り太い腰

〈ばら吟社〉　七　月

課題「不平」

木下　城南　選

特　選

こと毎に感謝すれば不平なし　泉　州園
不平みな胸におさめて母は老い　村上ふさ子
ありのまま言えば不平と葬られ　斎藤　竜子
バトラーしげ子

子の不平やさしい父が聞いてやり　長井　記代
数々の不平を胸に老い達者　蔡　月珠
省みて不平は言わず自己励み　村岡美代子

秀　吟

不平など持っての他のおもてなし　岩本多佳男
豊かさへ不平も言えるとは平和　柳沢　美涼
快復期不平だんだん多くなり　田中　良実

ミーティング来ぬ人ほどに不平言い　上賀　兼子
衣食住足りて不平が多くなり　佐々木　要
人生路不平出るから面白い　三浦　里ん

子は不平言わず早起きキャンプ行き

何にでも感謝してれば不平なし　望月　弘江
　　ストロベルまちえ
口喧嘩不平不信の気で過ごす
ぶちまける不平誰が為あてもなく　蔡　月珠

佳　作

狭い家不平のかわり遠出する　村岡美代子
不平とは己が手持ちの不足だけ　〃
陽を吸うた布団で何の不平など　岩本多佳男
満ち足りた暮しに老いと言う不平　〃
うっかりと吐いた不平を叱られる　柳沢美涼
持つ不平聞いているのか影ぼうし　〃
幸福になっても不平なくならず　田中　良実
人前で言えぬ不平を家で言い　〃
不平なく世を渡るには先ず感謝　泉　州園
不平をばこぼすな丸く世を渡れ　〃
不平など昔思えば言えぬはず　村上ふさ子
不平など言うな両親ありながら　〃
独り言ブツブツ不平を並べたて　上賀　兼子
不平ある顔して猫が餌皿みる　〃
要らぬ時当たる雨予報不満顔　佐々木　要
ぶってもこぼすも笑うも浮世ひとつ　〃
不平など言うまい神に叱られる　斎藤　竜子
不平言う子を叱る父がなし　〃
世の中は不平不満の人の渦　バトラーしげ子
不平など言えない三度の食事あり　〃

不平など忘れ満腹眠くなり　三浦　里ん
同じに切ったケーキへ子は不平　〃
不平を言えばきりなし異国住み　長井　記代
不平など馬耳東風と仰ぐ空　〃
国民の不平笑顔で聞く首相　山中　桂甫
空便で書留にすることが起き　〃
年の功不平は減って感謝増え　望月　弘江
満ち足りていながら不平をこぼす人　〃
　　ストロベルまちえ
母の愚痴不平不満の夫もつ　蔡　徳音
人の為不平を鳴らす義侠心　〃
たらたらと不平言う人たわいない　蔡　月珠

軸　年重ね不平もなくて只感謝

……選後の感想……

「不平」の選をようやく終りました。題にもよりますが、これはと思う特別な秀句を見られませんでした。でも選を引き受けて何時も大変勉強になります。川柳は一生の勉強であります。

余談でありますが、先日の大会で同郷同郡の二人に逢うことが出来て懐かしく嬉しいことでありました。その人はロスの村上ふさ子

さまと、もう一人は桜府吟社の渡辺多朗君で
す。感激でした。

「同郷と聞いて高鳴るわが心」

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

『六月の遅着』　雑詠　望月　弘江

透きねらう見えない敵に気を配り
昨日まで寒い寒いと今日の汗
藤の花松にもたれて長く垂れ
ジャム作り家中甘い匂い籠め　王　生栄

気は急くがせかれぬ句頭をいため
他人さまが喜ぶ指圧のボランティヤ
美しいバラの名札は良い記念
他人のよきところ学びて鑑とし

課題　「油断」　望月　弘江

油断した四・五日の間に草茫々
油断して買ったばかりの鍋焦がし　王　生栄

油断ならぬ大敵おのが心なり
油断なき心ずかいに頭がさがる

〈ばら吟社〉　七　月　句会

宿題　「有名」　互選（高点順）

有名な句だから胸に生き続き　記代
有名になれば人柄まで変り　満恵
古さとへ錦をかざる有名人　竜子
有名になればカメラの目が光り　兼子
有名になればマスコミつきまとい　城南
水清く住み良き有名バラの町　里ん
有名校子の入学を親願う　し
噴火して急に有名客を寄せ　〃げ〃
有名な観光地にはバスの列　竜子
冗談もうっかり言えぬ有名人　ま
有名な人気を馳せる映画スター　ち
有名なお菓子だから買ってみる　記代
有名な観光地にも不況風　ま
有名になってそれから味が落ち　ちえ
写真みて楽しむ有名観光地　幽香ん里

宿題　「やすらぎ」　互選（高点順）

やすらぎは頼る子皆近く住み　里
居るだけで心やすらぐ妻があり　幽
やすらぎが欲しい大役すんだ後　香ん
やすらぎをくれる鳥声朝の窓　記城南代

打ちあけて心安らぐ胸の中　満恵
大任を果たして親娘茶をする　竜子
辛酸の過去を流してまるい顔　幽香
安らぎの眠りをくれる母の膝　しげ子
上げ膳に妻のやすらぐ旅の宿　里ん
すこやかな家族の安らぐ笑い声　記代
夏の山やすらぎを知る山の家　まちえ
夜風情やすらぐような星あおぐ　〃
蝶ひとつ花の褥で昼休み　竜子
やすらぎを与えてくれる趣味の道　兼子
やすらいだ気持ちふる里山や川　しげこ
払い物支払いやすらぎ米洗う　里ん

山に住みオペラ美声がこだまする　まちえ
学友を呼び合う朝は皆元気　里ん
恋心歌って居るよう鳥の声　兼子
声かけてくれた顔だが名を忘れ　竜子
グランマーとやさしい孫の声がする　しげ子
美声ありオペラ歌手に聞き惚れる　まちえ
カラオケバー美声聞かせる人の数　しげ子
帰る孫大きな声でグッドバイ　満恵
賑やかな句会楽しい話し声　里ん
耳元でねだるその声いとやさし　〃
久方の合う瀬に声なく涙する　兼子
母さんと間違がわれてる電話口　竜子

席題「声」

木下　城南　選

大声を出して呼んでも見たい山　佳作　しげ子
雑音に電話の声も聞きにくい　兼子
ほがらかな人ほど声は高くなる　満恵
平和呼ぶ声は大きく空回り　竜子
遊ぶ子を母は大きな声で呼び　満恵
すんだ川鳥の声する子が遊ぶ　まちえ

秀吟

軸　災害に安否気ずかう声がかれ　城南

★城南さんがウォーカーで句会へ顔を出してくださって一同感激しました。例により席題の選もこころよく引き受けてくださり、来る七月二十日の誕生日には、九十七才と言うおめでた、ますますのご健在を祈り心からお祝い申し上げました。心ずくしの御馳走を頂きながら大会のうれしい思い出や頂いたお土産分配に話しもはずんでいつもながらの楽しい集いでした。あれやこれやのエキサイトメントで城南さんの写真は次ぎの句会にすることにします「フイルムを忘れた竜子の失敗」

悼　田城藤枝　様

アメリカの川柳を語るとき忘れてならない藤枝さんの名前であります。

一九四〇年頃、シャトル川柳互選会と肩を並べて大北柳壇が華やかに肩を並べて川柳を社会に発表して居りました時、藤枝さんは女流作家として活動され、月々の佳句を発表されていました。

一九四二年戦争と共に収容されたミネドカキャンプで、偶然にも藤枝さんに逢いいろいろと先輩として指導もうけて今日になりました。ミネドカ川柳会も藤枝さんと私位のもので姉のご健康を祈り喜んでいました。今姉の逝去をきいて心からの哀別を感じます。アメリカ川柳の発展を守ってくださいませ。バラ吟社一同と共にご冥福を祈りあげます。

引き止めるすべなく送る星見上げ　竜子

遺句

アパートの候補地となる景勝地
商魂は移転祝いの名でもうけ
雷鳴にけじめをつけて夏はゆく

雑感

北岡　弥寿

「愚性知性品性」をみがき全人教育を・・・これは囲碁を訓える緑星学園運営の姿勢である。

趣味を通して自己修養が出来れば幸いである。「川柳を宗教として生きて行く」この句主のような信念の人が柳人の半数をしめておれば、文芸の中でも上位にランクされそうな気がする。人の心を掴むような句は、実感句が多いではないだろうか・・・其蜩師は、川柳は、真実を追い求め嘘なもの描写を入れてはならない。座五はこの句にはこの座五しかないと言う座五をもって来いと言っている。これを実行するには句作でなくて苦作する必要がある。

又紋太師は、人格の必要性を説いている。「いかに抜群の秀句を出してもその句に相当するだけの人格が備わなくてはその句は空念に等しい」と酷しい。二者の説く処をよく吟味すれば秀句が生れそうな気がする。

在日韓国人の歌人李正子（三重県上野市緑ヶ丘中町）が外国人登録証切り替えに必要な

指紋押捺問題などで揺れる心を詠んだ短歌が再来年から使用される高校一年の国語教科書に載る事が確実となったと報じていた。

指紋捺印は、外国人の反対に合って改善されたが、教科書に載せる理由がわからない。六月二十六日の日米時事には日本に帰化した在日韓国人らが帰化申請の際に摂取された指紋の返還などを国に求めた訴訟の口頭弁論が二十五日京都地裁で開かれ被告国側は、帰化申請者の指紋をすべて廃棄する方針を明らかにしたとも出ていた。

時の法律に決められた事が一部の人間に依って訴訟される内政の干渉にならないだろうか。今アメリカでは、一九七七年以前に取得したグリンカードの更新をしている。この更新の際人指し指の指紋を取られるが、日本と違ってアメリカには世界各国からの外国人が棲んでいる。この指紋を取るのに誰も文句を言わず又反対の声も聞かない。この事実をどのように解釈すべきだろうか。

第二次世界大戦に、日系人十一万が砂漠の中のキャンプに強制収容され、無為無策の生活を強いられた。人間暇が出来ると各人は趣味に生きようと努力するもののようである。

詩情ある者が集い、川柳なるものが誕生した事はなにも不思議な事ではない。秀吟家が多かったせいか、中々秀句の数々がある。この中の秀句を選んで文部省に推薦して国語教科書に採用して貰えば強制収容されたキャンプ生活の実体も、海外移民地に開花した短詩川柳とが同時に紹介される絶好の機会だと愚考するが、いかがなものであろうか。

おわり

木下城南さんにお会いして　村上ふさ子

確かなる筆跡九十七才とは見えず
達筆の翁の便りに最敬礼
翁の一語一句に明治の香
ご坊にも翁の便りみせる宵
長老とあがめし人は同郷人
仏縁か仏教会での出合いなり
ペンネーム偶然一致の里の町

『私の好きな句』

五七五数えて上手に齢をとり　田中　良実
（評）川柳のとりこになったので、私もそうなりたいと望んでいます。　岩本多佳男

スティワデス美人で空の旅楽し　斎藤　竜子
（評）世話をして下さる人が美人だと何でも楽しいですね。

買物に売り子の愛嬌聞くうれし　三浦　里ん
（評）最近はどちらが客かわからない売り子さんがたくさんいるので、こんな句を読むと心があたたまります。

『私の好きな句』　王　生栄

方便の嘘がまことになる恐さ　長井　記代
（評）嘘も方便と言いますが慎むべきです。

四苦八苦登った頂上素晴らしい　バトラーしげ子
（評）同感です。つくづく感謝しています。

好物を見れば手の出るいやしんぼ　上賀　兼子
（評）私にもそう言う事があります。

『私の好きな句』　田中　良実

お互いの白髪に気付く久し振り　斎藤　竜子
（評）久し振りに会う友は随分年を取ったように見えるけど自分もそれだけ年を取っているんですよね。

香典が続き年金足を出し　村上ふさ子
（評）アメリカではまだいいほうですが日本に行くとよくこんな話しを耳にしますので、何となく身近にかんじます。

動物に医療保険のある世相　上賀　兼子
（評）歯の定期診察もあると聞いていたんですが、それだけ世の中平和なんでしょうね。

『私の好きな句』　王　生栄

ポックリと往きたいなんて無理かしら　伊藤　皆子
（評）私もそう願っています。

『八　月』

同人吟

安住の地と思えない養老院
養老院真から語る友が無い　木下　城南

髪切って清せい頭軽くなり
温かいソーメン夏はまだ遠い　三浦　里ん

ほのぼのと友と語った日を思い
再会がまたありませう望みかけ　斎藤　竜子

散歩道孫にひかれて今日も行く
急転のお天気百度わちとつらい　バトラーしげ子

誤りの荷物日本へ行き戻り
ほつほつと胸暖まる祖国旅　村岡美代子

薔薇の美が映えぬ曇天の多い夏
水着よりレィンコートの要る涼夏　上賀　兼子

しがらみをどうにか抜けて虫の声
この夏は陰雨続きのバラの街　長井　記代

〈ばら吟社〉　八　月

「雄　詠」　大森風来子　選

特　選

車間距離おくと心がよく読める　岩本多佳男

車も当然のことであるが、人間も絶えず心にゆとりを持って物事を客間的に且つ冷静に見る必要があろう。思わず旨いと私の膝を叩いた。

鰻丼と郷愁合い乗る舌の上　上賀　兼子

合い乗るの合いは「相い乗る」が正しいと思いますが、うなどんを舌に乗せて、しばしふるさとを偲び、郷愁にひたれるそのひとときを大切に生きてほしいとおもいます。

生きてゆく大地へ夢の種を蒔く　岩本多佳男

祖国を離れていることが前提にあるだろうが、それを巧く「大地」と詠み、しかも夢の

種を蒔いておくに、強く心をひかれた。

秀吟

流れても澱んでも又水の旅　山中　桂甫
同窓会行かれずせめて名簿繰る　黄　雪英
川柳を最後の趣味と取りすがり　木下　城南
　　岩本多佳男

山痩せてあの日の返事かえらない
老農はシャベルを杖に兼用し　佐々木　要

雑詠　大森風来子　選

外人に日本の素顔暴かれる（佳）　山中　桂甫
流れても澱んでも又水の旅
一寸した油断が何時も狙われる（佳）
コンピューター車の列を緩和する
眼が肥えて安売りなどは覗かない　三浦　里ん

子を抱いた客の多い披露宴
バス利用好きな買物して楽し（佳）
花火売るスタンド行列長いこと
果物を当て合いジュース飲む笑顔
洗濯日近頃何時も雨が降る　ニコラス華

脳天を焼くような暑さの加州晴れ（佳）
じりじりと私をバビキュー午後三時
収穫日ハズにお出まし願いましょう（佳）
菜園にジャックとビンズの夢を盛り
暑さにも神の計らいゆだねます　王　生栄

人として守るべきこと守るべし（佳）
金銀財宝は己を奈落ちに　嵌込む
欲張るな足を知る者は幸あり
妬むなかれ先ず己をかえりみよ
嘘つきは己が墓穴掘るみたい（佳）　蔡　徳音

紛争は懇談の上おちつける
全体の服飾そろい点数ふえ
宰相の腹海に似て船漕げる
その日まで脳よボケたまうことなかれ（佳）
年問わず向学心に燃える可し（佳）　蔡　月珠

気張りてもやつれ隠せぬ病み上がり
はずみゆく西瓜にすらり汗流し
駄々子の着のみ着のまま雨の中
夜更けて按魔の吹く笛うら淋し
日々作る糖尿料理たねつきて　黄　雪栄

同窓会行かれずせめて名簿繰る
障子の眼周囲の眼よりなお恐い

冷汗をかきつつ走るつつら折り
振り出しに戻れば心さつき晴れ（佳）
才能は無いが捨てない趣味の道（佳）　村上ふさ子

読み返す柳誌に生活見えかくれ（佳）
大切な奉仕にドクター聞いてくれ
子に苦労幸か不幸か忙しい
五十年連れ添いたまに嘘もあり（佳）
こだわりのない日暮しで気が軽い　木下　城南

又一つ馬齢加えて九十七才
九十七最早天寿と自惚れる（佳）
同郷と聞いて高鳴るわがハート（佳）
川柳を最後の趣味ととりすがり
いつしかは片道切符買うさだめ（佳）　村岡美代子

マッターホルン期せず結ばる赤い糸
九年振り何と祖国の様変り
どこまでも車窓に感ず発展振り
鼻栗の瀬戸と詠まれしこの潮路
めんたいこ長崎土産博多製　田中　良実

言いにくい事は寝事で妻に告げ（佳）
美人ほど以外とお嫁に行きそびれ（佳）
ライセンスとれば息子カーねだり
突然に帰り両親驚かせ（佳）

キッチンで鼻歌自慢の妻料理（佳）　柳沢　美涼

信じても不安の心が押してくる
病んでからダイエット・カロリー食の膳
チェキアップ今日は嬉しい帰り道
好きなもの選ぶテレビを見る平和（佳）
天災の恐さも知って見るテレビ　バトラーしげ子

リタイヤー主人時間をもてあまし
夕食は家族相和す憩いの場（佳）
古い塀犬が壊して入り込み（佳）
集まれば楽し姦しミーティング
バビキューも楽し家族のピクニック（佳）　上賀　兼子

鰻丼と郷愁合い乗る舌の上
ほころびの修繕きかぬ知恵袋
年齢を数えぬ事にして久し（佳）
思い出の浜辺で待ってた月見草（佳）
黄昏れて競争心も薄れ行く　岩本多佳男

生きてゆく大地へ夢の種を蒔く
ともかくも並んでおこう長い列（佳）
いたわって貰って淋しくなるも年（佳）
山痩せてあの日の返事かえらない
車間距離おくと心がよく読める

サンダルの似合う児踊りの輪に興じ（佳）　斎藤　竜子
みつ豆よろこぶ句会の笑い声
こぼれ実の何になるのか花をつけ（佳）
砲煙も排日もなく踊りこけ
金釘流母の手紙のなつかしい（佳）　佐々木　要

梅干しがつい欲しくなる夏の飯（佳）
ちびっこ国代表は見栄悪い
持病薬持って遠征ラスベガス（佳）
くの字腰のしてあるけと無理を言う
老農はシャベルを杖に兼用し　望月　弘江

これからの進路や如何に日本丸（佳）
細川さんしっかり舵を頼みます（佳）
奉納の花の手入れは念を入れ
池の鯉大きな口あけ餌を待つ（佳）
忙しい掃除は自然と丸くなり　長井　記代

反対の彩で仲良く住む夫婦
まないたがくぼんで今日も母達者（佳）
セミ声が止むと昔がよみがえり（佳）
潮騒がいつか亡父の声になり（佳）
八月の入道雲は悲し過ぎ（佳）　ストロベルまちえ
雑魚寝する海水浴にキャンプイン

七夕日仏壇供養西瓜食べ
海辺にも入り混じり住む夏の日々
山家にも山に雨降る花に水
私的にもゆったりとする田舎暮らし

「選後に」
このたびの日米文化交流全米川柳大会に出席し、皆さんと親しくお目にかかれて大変うれしく思いました。とくに総領事さんの手から、ばら祭りの特別ゲストとしてあたたかく迎えられたことは、私の生涯を通じて、とくに国際交流の上からも忘れることの出来ない栄誉と心得、これからもこの道に邁進することを誓います。

課題「返事」　大森よしえ　選

返事する前に立ってる出世型　佳作　田中　良実
なぐさめの言葉をよって書く手紙　柳沢　美涼
返事だけ声はすれども人は出ず　村岡美代子
日本人返事はよいが理解せず　佐々木　要
首のばし今日か明日かと待つ返事　望月弘江

返事来ぬ友を案じて電話する　バトラーしげ子
新聞を読んでる主人の生返事　〃
郵箱を再三覗き待つ返事　木下　城南
難しい返事消したり破ったり　〃
TVに心奪われなま返事　黄　雪英
言いよどむ返事は声も細々と　〃
返事書く心早くも彼の空へ　〃
決心のつかぬ返事のインク壺　上賀　兼子
難しい英語の返事イエス・ノー　三浦　里ん
小包みに丁寧な返事すぐに来る　〃
まだ席があるとの返事バス旅行　〃
待つ返事せつなき思い旨に秘め　蔡　月珠
出す返事言い訳書いて思案する　村上ふさ子
まな板に妻の返事のリズミカル　岩本多佳男
帰化決める返事をくれた里の山　〃
すぐ返事書いて心は晴れ渡り　山中　桂甫
真心で書く返事に見る人格　王　生栄
遅らせてならぬ返事に気が急ぎ　〃
あの頃は返事も弾み新世帯　ニコラス華
返事だけ姿が見えぬ倦怠期　〃
どっしりと返事に腰が居座って　〃
筆まめな人の返事が来ぬ憂い　長井　記代
あっさりと返事をすればセールスマン　〃
今日書こうあした返事と筆無精　〃

客位

話しても返事もらえぬ墓の前　田中　良実
ハイと言う返事の響きすばらしい　バトラーしげ子
今日もまた首長くして待つ返事　蔡　月珠
FAXの返事チョッピリ他人めき　斎藤竜子
幸せな返事が書ける日の平和　柳沢　美涼

人位

元気良い返事で明るい家の中　上賀　兼子

地位

真心を示せば花のいい返事　岩本多佳男

天位

借りに来て軽い返事に救われる　村上ふさ子

軸

いい返事が来たらしい娘の晴ればれと

「選後に」

返事という日常茶飯事の言葉の中にも、さまざまに深い人生の想いがこめられてあり、一句一句味わう楽しいひとときでした。そして思うこと、これからはお返事をすぐ書きましょうと、皆様のご健吟をおいのりします。

「遅着」課題「返事」　ストロベルまちえ
夏だより返事待つ人落ち着かぬ
手紙好き返事書くにも挿絵いれ

……訂正とおわび……

大会号十四頁　「席題　遠い」

天　位　　杭田　一雫

試歩一歩遠い方へかける夢

「試歩一歩遠い万歩へかける夢」と訂正してお詫びいたします。（記代）

〈ばら吟社〉　八　月　　木下　城南　選

宿題「晴れる」

佳　作

気がかりも晴れるうれしい聴診器　里ん
晴間みて今日のスケジルシャッピング　竜子
初出勤見送る方も晴れやかに　竜子
悩み事晴らしてくれる青い空　兼子

晴れやかな顔で始まる入学式　兼子
今日も又晴間を見せぬ雨続き　しげ子
夏の月晴れた夜空に燃えている　〃
晴れる日にパレードもある賑わしい　まちえ
夏晴れる薊に白穂虫も飛ぶ　〃
気晴らしに友を訪ねてお茶にごす　満恵
卒業式キャップにガウン晴姿　〃
晴れやかなお顔お二人見送りぬ　美代子
晴れパレード暗きニュースを吹っ飛し　〃
蝶々も花から花へ空も晴れ　記代

野遊会食べて喋って気が晴れる　秀吟
霧晴れて飛行機飛ぶとよいしらせ　里ん
雨用意して来てコーモリバスの中　〃
御成婚日本の前途晴れやかに　竜子
バビキューも楽し奇麗に晴れた空　兼子
晴れる朝空の青さが目に痛い　しげ子
飾らずに人柄匂う晴れ姿　まちえ
満恵

天も嘉(よみ)パレード見事に晴れ間見る　美代子
晴れた日も曇る日もある人生路　記代
晴れる日を待っても飛べぬ紙の鶴　〃
軸　疑惑消え心身共に晴れわたり　城南

宿題「袋」　長井　記代　選

人命を救う車のエヤバッグ　佳　作
袋にもみなそれぞれに使い道　城南
デパートの袋溢れる大セール　〃
娘も十五化粧袋をプレゼント　竜子
三人がよればふくらむ知恵袋　〃
袋小路追いつめられて夢がさめ　里ん
幼な子の夢と袋にサンタ来る　兼子
買物の袋やぶけて大慌て　〃
古さとは袋小路の街となり　しげ子
米袋特選米の松竹梅　〃
紙袋食料品店名を入れる　まちえ
大小と袋調法して使い　〃
走り出て孫に手渡す菓子袋　満恵
福袋中をのぞくは人の常　〃
状袋悲喜こもごもの荷をにない　美代子
救援の袋が急ぐ災害地　〃
紙袋二度のおつとめリサイクル　秀　吟
食料も袋一ぱい買える幸　城南
よく食べる子等の胃袋頼もしい　竜子
思い出を包んだ寝袋子は巣立ち　里ん
ニュースタイル袋の様なドレス出来　兼子
　　しげ子

香水も匂い袋となって売れ　まちえ
返答に友から借りた知恵袋　満恵
お土産を手提げ袋にどかと詰め　美代子
軸　ゴミ入れる袋も持って旅なれる

勉強室　☆原句　★添削

題「約束」
☆うかつにも口約束をして悩み
★約束を忘れ約束して悩み
☆約束をした土産を買い忘れ
★頼まれた品がなかったことにする

題「本」
☆本読めとすすめる母はテレビ族
★テレビ見る母に読書をすすめられ
☆老いの身に理解出来ないマンガ本
★年寄りが度胆抜かれるマンガ本
作句は難しく考えずに題に素直に作りませう。

〈ばら吟社〉

課題及び選者

九月　課題―溜め息―佐藤美代子選
　　雑詠―佐藤江陽選

十月　課題―不安―柳沢美涼選
　　雑詠―花見留雄選

十一月　課題―髭―木下城南選
　　雑詠―田村けん坊選

十二月　課題―眼裏―安保由紀子選
　　雑詠―山中桂甫選

★課題―三句　★雑詠―五句

★締切り毎月五日

感謝録

田島ちよひ様	二十弗	支援費
田村けん坊様	三十弗	〃
粋華智恵子様	二十五弗	〃
吉村　美和様	三十弗	〃
土井とし子様	二十五弗	〃
山中　桂甫様	二十五弗	大会祝
本田　紅女様	三十弗	〃
土井とし子様	二十五弗	〃
佐々木　要様	三十弗	〃
佐々木　要様	三十弗	支援費
福岡千鶴子様	二十弗	〃
岩本多佳男様	五十弗	特別支援
高山よし緒様	二十五弗	入賞記念

大会が済んで二ヶ月たつと言うのに思い出は、濃いく濃いくみな様との楽しかった事を思います。行き届かなかった処も数々で、後からすまなかったと思いますのに皆様から暖かいお手紙を頂きバラ吟社一同恐縮しています。「有り難うございました」

又三年先にポ市大会が回ってきます。今度は城南さんの、百才のお祝の会となります故今から吟社一同張り切っておりります。

時事川柳

大森風来子　選

人件費という名で円高吸いあげる　美智保

（評）円高は企業によっては、損益はまちまちであるが、円高の差益は国民の懐に中々帰って来ないのが日本の仕組みである。

中国が動き始めた地鳴り聞く　尺花

（評）中国は大国であり、真の民主主義国ではない。ニュースが国内でも伝わらないように外国にも伝わらない。しかし国の実態がわかってくると恐ろしい力のある国である。

改革の結論玉虫色を選る　康明

（評）改革の内容ではなく、今この時機に改革を稱えないと、政治家自身が国民から見離される。政治は日本のためではなく自己防衛だ。

武器つくりもうけるための国もあり　昌子

（評）ほんとうに他国のために作っているのではない。時代遅れの古手を売って利益を得るのだ。（柳誌ますかっとより）

★編集室

鎖国から開放言葉の自由、文学の自由と内外の交流が盛んな時代となりました。

先日頂いた北岡弥寿氏のお手紙興味深く読みました。（九・十頁）

皆様の御賛同如何でせう。御一報お願い申しあげます。

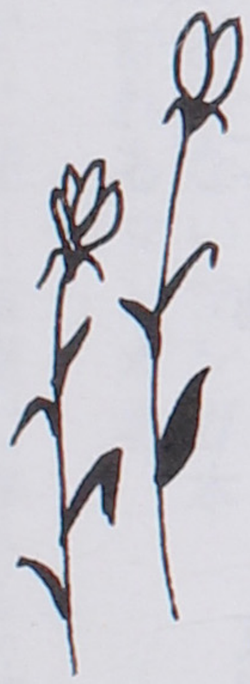
朝夕涼しく秋を思わせるこのごろです。

祖国日本では、新しく非自民連合体の細川内閣が誕生しました。

北米川柳の田城藤枝さんが亡くなられました。戦前からの柳人でアメリカ川柳の草分けの人です。先般のバラ川柳大会には出席出来ないがと、投句してくださっています。

ご冥福をお祈り致します。

では皆さん又次号まで、御投句をお待ち致しております。



パラ吟社投句用紙

雑詠　五句

氏名（雅号）

課題「　　」氏名（雅号）

私の好きな句

氏名

評 1

評 2

評 3

私の好き な句

氏名

季語 1 季語 2 季語 3

投句先

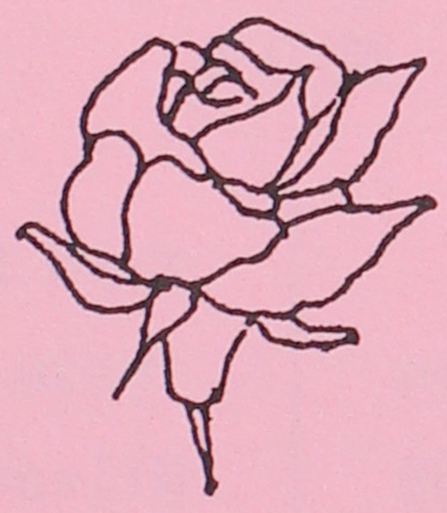
Ryuko Saito	Kiyo Nagai
4847 S.E. Brooklyn	16690 S.E. Valleyview Rd.
Portland, OR 97206	Milwaukie, OR 97267

ペン・ラ・吟・在・投・句・用・紙

投句先

Ryuko Saito
4847 S.E. Brooklyn
Portland, OR 97206

Kiyo Nagai
16690 S.E. Valleyview Rd.
Milwaukie, OR 97267



川柳ばら
発行日　七・八月号
発行所　一九九三年　八月
印刷所　ポートランド　ばら吟社
ナガイ・グラフィク